

自閉症スペクトラム・アワード

近年、発達障害という言葉が社会から認知されるに伴い、自閉症スペクトラムに関する報道が飛躍的に増加し、自閉症を題材にした映画、番組や書籍も、数多く作られるようになりました。

そうしたものの中には、古い情報・知見に基づく誤解などから、当事者や家族を困惑させるものも少なくありません。

一方で当事者に寄り添って作られた労作が、届けたい人や場所にしっかり届けられていないという現状もさまざまな場面で見受けられます。

そこで、東京都自閉症協会（TOKI）では、2010年度より、自閉症スペクトラム・アワードを創設いたしました。「自閉症当事者」と「家族」の視点から、自閉症の啓発、自閉症当事者の可能性の拡大に貢献する優れた報道や・活動などを表彰しています。より多くの人たちに知っていただき、その仕事を応援することを目的としています。

■ [2017年度表彰作品・報道]



NHK「発達障害プロジェクト」

対象者：NHK制作局 生活・食料番組部

「あさイチ」チーフ・プロデューサー 斎藤 真貴 様

表彰理由：NHKは2017年5月に「発達障害プロジェクト」をスタートさせ、見えにくいがゆえに誤解の多い自閉症を含む発達障害を番組横断で取上げ、その障害のある人や周囲の人たちの様々な暮らし方や働き方、悩みや工夫を多角的にまた映像を駆使して伝え、当事者や家族、周囲の人々の大きな共感を得ました。これは関係者のこの障害に対するこれまでの蓄積の成果だと考えます。番組を通じて発達障害の理解が幅広く進むことに多大な貢献をされました。関係者の熱意と番組の質の高さを評価するとともにその努力に感謝します



『青山が青になる』青山周辺ブルーライトアップ、神宮球場で伊藤忠ブルーナイターを開催、ブース出展や場内アナウンスを実現

対象者：伊藤忠商事株式会社 猪俣 恵美 様

表彰理由：貴殿は、伊藤忠商事株式会社サステナビリティ推進室長代行兼伊藤忠青山アートスクエア館長として、2015年より世界自閉症啓発デーに寄与されてきました。その活動はアート展の開催にとどまらず、神宮外苑など青山周辺の各施設へのブルーライトアップ・デコレーションの呼びかけ、外苑前駅でのデジタルサイネージの掲示など、多岐に渡っています。2017年には神宮球場で自閉症啓発デーを案内するアナウンスを実現するなど、自閉症への理解が幅広く進むことに多大な貢献をされました。そのあたたかな熱意とアクティブな努力に、深く感謝いたします。

■【2016年度表彰作品・報道】敬称略



発達障害支援に関するメールマガジン 「すまいる通信」
世田谷区障害福祉担当部 障害者地域生活課

表彰理由：世田谷区障害福祉担当部 障害者地域生活課は、これまで自閉症・発達障害に関して先駆的な取り組みを行ってこられました。メールマガジン「すまいる通信」は区内の発達障害に関する施策やイベント情報を網羅するだけでなく、悩み相談やコラムなど、有意義な記事で構成されており、孤立しがちな親御さんや当事者を勇気づける内容であり、自治体が展開する画期的なメディアです。「支援につながれない」という悩みを抱える人も多い中、積極的に「発信」を行うその姿勢に感謝するとともに、これを表彰します。



現代思想「特集号10月号」緊急特集～相模原市障害支援施設の事件を受けて～
青土社 現代思想編集部 栗原一樹、押川淳、村上瑠梨子、小林宏朗

表彰理由：昨年7月26日に発生した相模原市障害支援施設に関する事件は、計り知れない衝撃を私たちの社会にもたらしました。青土社「現代思想」編集部はアカデミズムの立場から事件の重要性を認識し、思想、心理、病理、法理、障害者福祉、報道など多方面から問題点を立体的に浮かび上がらせました。事件からわずか2か月で先駆的にこの労作を出版した功績と熱意に敬意を込めてこれを表彰します。

■【2015年度表彰作品・報道】



テレビ番組：NHK・ETV特集
「それはホロコーストの“リハーサル”だった～障害者虐殺70年目の真実」
NHK文化・福祉番組部
村井晶子様（ディレクター）/熊田佳代子様（プロデューサー）

表彰理由：この作品は生きるに値しない命としてナチスドイツ下で行われた障害者抹殺計画の加害者がナチスだけではなく、当時の精神医学や人々の経済的負担論などにあったことを丹念な取材から深く掘り下げました。さらに、当時の厳しい状況でもこの計画に抵抗した人たちがいたことを描いたことは勇気を与えるものです。障害者を排除することがいかに危険な道であるか、障害者が人々と生きていることそれ自身に社会的な価値があることを示した作品であり、制作に感謝するとともにこれを表彰します。



共同通信社 一連の障害年金に関する記事
対象者：共同通信社・生活報道部 市川亨様

表彰理由：障害年金の支給抑制の進行拡大は以前から重大な問題でした。認定の基準が曖昧で、かつ、障害年金にかかる医師も含めた関係者の認識が不十分な自閉症や発達障害はとくに支給が抑制される傾向がありました。記者の独自の調査分析と精力的な取材に基づく一連の記事は、的確に障害年金の問題点を明らかにし、幅広い関心を呼びことになりました。感謝するとともに、これを表彰します。

■ [2014年度表彰作品・報道]



テレビ番組:フジテレビNONFIX 2015年2月5日(木) 02:20~03:20放送

「変わり者」と呼ばれて ~“見えない”障害と生きる~

ディレクター 内藤瞬様

プロデューサー 栢木信人様、佐々木伸之様、今井麻耶 様

制作 フジテレビジョン

表彰理由: 見た目には分かりにくい自閉症スペクトラムの成人の日常の人間関係を丹念に追い、本人の苦悩とともに、周囲の人の深い理解で生活が成立しているという現実をつぶさに伝えた番組でした。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともにこれを表彰します。



知的障がい者サッカー日本代表チーム

「もう一つのワールドカップ」ブラジル大会 第4位獲得

第6回INAS知的障がい者サッカー世界選手権日本代表チーム

天野直紀様 日本知的障がい者サッカー連盟理事長

小澤通晴様 日本代表監督

表彰理由: “もう一つのワールドカップ”INAS知的障がい者サッカー世界選手権大会2014ブラジル大会において、日本代表チームは出場4回目にして初めて予選リーグを突破し、世界第4位に輝きました。この代表チームの活躍は自閉症・発達障害者を含む知的障がい者を大いに勇気づけると同時に、社会に障害者の可能性を強く印象付けてくれたことに対し感謝するとともに、これを表彰します。

■ [2013年度表彰作品・報道]



テレビ番組: NHKバリバラ NHK大阪放送局 制作部 情報・福祉班

表彰理由: バリバラでの自閉症や発達障害を扱った一連の番組ではこの障害の特徴を笑いのなかに明るく表現し、当事者の「生きる」を応援してきました。

また、出演者にコーピンググッズの使用を認めるなど当事者の感覚ストレスに配慮した制作がなされました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。



「薬にたよらない精神医学」日本評論社

編者 よくしゃべる精神科医の会 井原 裕様・松本俊彦様

出版 日本評論社／小川敏明様

表彰理由: 発達障害児・者が向精神薬によって、症状が改善した例がある一方で、大変深刻な状態に陥っている例が後を絶ちません。くすり漬けの精神医療におちいらないためにできることを多角的に深く取り上げたこの特集は、建設的なものであり、この問題の改善に大きく貢献するものとして感謝するとともにこれを表彰します。



金子書房 加藤浩平様

『子どもの発達支援と心理アセスメント 自閉症スペクトラムの「心の世界」を理解する』
木谷秀勝著「発達障害のある子の自立に向けた支援」 児童心理2013年12月号臨時増刊

表彰理由：近年、自閉症スペクトラムについての書籍は数多く出版されていますが、あきらかな知識不足&理解不足が見受けられる本も目立つようになりました。編集者として、研究者・当事者・関係団体とかかわり続けながら支援の現場に立ち、また自身が研究者としても学ぶ姿勢に感謝するとともにこれを表彰します。

■ [2012年度表彰作品・報道]



雑誌記事:A E R A:つまずくエリート 東大生が悩む「発達障害」

医療・福祉ジャーナリスト/元 AERA 朝日新聞出版 編集部(受賞当時)大重史朗様

表彰理由：この記事は、多様な自閉症スペクトラム障害の人たちの生き方を紹介することで、画一的な自閉症理解の払拭に貢献しました。丹念な取材で社会に広くその現実を知らしめその理解を得る契機となりました。



新聞記事:毎日新聞2012.5.28 6.12 10.1 「いま子どもたちは 発達障害」

毎日新聞 生活報道部 記者 田村佳子様

表彰理由：高機能自閉症の男児に、小学校側が成績を「評価なし」とする通知表を渡していたことを報じた記事等。この一連の記事は、発達障害をめぐる教育・医療の現実を丹念に取材され、その課題を指摘し、いま求められている施策の方向を的確に示すものでした。



テレビ報道:NHKおはよう日本 2012.11.11放送

日曜特集「アプリが障害者の生活を変える」 制作:日本放送協会

表彰理由：番組では自閉症児とのコミュニケーションに最近のタブレット端末とアプリという道具の活用が有効であることをわかりやすく紹介しました。これは同種の課題解決に希望を与えるものであるとともに、一般の方々にも自閉症の特徴を理解していただく機会となりました。

■ [2011年度表彰作品・報道]



映画:「ちづる」監督:赤崎正和様

表彰理由：ドキュメンタリーの映像を通し、暖かい視点から本人の生活を生き生きと伝え、また現実の家族の葛藤を描き、広く人々に感動を与え、その理解を得る契機となりました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。



連載記事：朝日新聞 2011.7.27～15回連載「いま子どもたちは 発達障害」

記者：大阪本社 左古将規様

表彰理由：この記事は 感覚異常（聴覚）の面から発達障害の人の日常を丹念に取材され 社会に広くその現実を知らしめ その理解を得る契機となりました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。



新聞報道：朝日新聞 2011.3.22 朝刊「周囲に遠慮 車中泊1週間」

記者：社会部 赤井陽介様、安倍龍太郎様

表彰理由：この報道は東日本大震災において避難生活が困難な自閉症者の実情を丹念に取材され 社会に広くその現実を伝え その理解を得る契機となりました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。



テレビ報道：テレビ朝日「モーニングバード」2011.12.7放送Get in touch!特集

制作：田中義樹様（チーフプロデューサー）、須田光樹様（チーフディレクター）

風間研一様（担当ディレクター）、羽鳥慎一様、赤江珠緒様、東ちづる様

表彰理由：この報道は自閉症スペクトラムの人たちの芸術活動を紹介すると共に だれもがつながりながら生きていくことの素晴しさを広く社会に伝え その理解を得る契機となりました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。

■ 【2010年度表彰作品・報道】



広報：「G-プレス」

制作：世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」 担当：稻垣修様

表彰理由：この作品は、豊かで暖かい視点から、発達障害の子どもたちの生きづらさにフォーカスすることにより、広く人々の気づきを促し、その理解を得る契機となりました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。



テレビ報道：「クローズアップ現代 アスペルガー症候群活躍の場を求めて」

2010年4月放送 制作：NHK 担当：井上登志子様

表彰理由：この作品は大人のアスペルガー症候群の人たちを丹念に取材され、社会に広くその現実を知らしめ その理解を得る契機となりました。自閉症の啓発に貢献したものとして感謝するとともに、これを表彰します。